滿州日報

…共上車…十餘輛 …遼東共來七十餘輛 …六吊九百至六吊八百

一…ホオスア仝　四圓
一中判洋紙 仝　二圓
一半紙罫紙 百枚　二十錢
一卷紙 四十枚續　十四錢

一…
一卓子　三十圓以上三十五圓
一卓子掛　四圓五十錢以上十…圓五十錢
一廚房用戶棚　六圓以上十二圓　七圓五十錢以上十圓

一…
一箱火鉢　二圓以上三圓五十錢
一宜德火鉢 一對　六圓以上九圓

Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

一長期連揭減價面議
發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二九番)

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議從減　每張四百文

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千壹百五拾萬圓

本支店出張所
橫濱　神戶　東京　長崎　大阪
倫動　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺

電話 十番 支配人室　百八番 事務室

橫濱正金銀行牛莊支店

日本郵船株式會社
瀛船出帆廣告

相模丸　四月十日發　大沽、芝罘、仁川、釜山、長崎、門司、神戶行
長幸丸　四月八日出帆門司、橫濱行
苫島丸　四月八日神戶直行　乘客は一二等室無し三等室に限る
山城丸　仝十三日出帆　神戶行　太沽、芝罘、長崎

乘船切符發賣は出帆前三時間マデ
未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ

營口代理店 旗昌洋行 (電話廿六番)

大阪商船株式會社
營口瀛船出帆廣告

潮州丸　門司神戶行　四月八日出帆

代理店　營口公園地橫東　ブツシユ兄弟商會　遠來洋行 (電話二十三)

瀛船帆廣告

日之出丸　四月七日長崎直行
摩耶山丸　四月七日大連、門司、神戶行
末廣丸　四月七日門司直行
日勝丸　四月八日入港仝十三日門司行
日海丸　四月十日入港
錦龍丸　四月十日龍口行
萬成源丸　四月八日龍口行
十二永田丸　四月十日仝
大龍一號　四月八日天津行
北平號　四月七日秦皇島竜口行

營口代理店 松茂洋行船舶部 元神廟街三〇六號(電話五二)

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞此本十新到各種木料東洋炸子貨與價實以應各主顧局急之需國本主人啓

宅合名會社分莊

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并其名譽己傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋綫子洋賬簿表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸

運輸部
道般特得官准開設火車轉運行於東西兩店并牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚
總司理人田中賴之助謹白　電話 東店五五 西店一八三

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便國貯油餅豆米麥更爲合宜乘滙有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉　貴客賜顧請到小號面議是荷　總司理人 葉亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油榨生意多年以本營業非祇做油房營業及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事潘玉田　副理事金德魁　設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南營乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞　本主人敬啓

仁裕

係裝運各幇火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北營乙第十三號

丸三洋行分莊

啓者本行開設於元神廟街精工自造羊肚手巾東洋緊身洋式襪子以及各樣雜貨俱全無不精美價值格外從廉賜顧者請光臨本行面閱是幸
丸三洋行分莊謹啓

永順洋行

本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議
西北街 東櫃(電話九十五番)
西義順棧內 西櫃(電話九十八番)

代代木烟公司

本行專售　日本官造紙烟　星象牌(斯達)櫻花牌(撒科)百合花牌(利利)均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆沽來福)清香撲鼻佳美適口而價值極廉　諸君欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤讎此廣告

本行瀛船
摩耶山丸　頼朝丸　專往東洋各埠

啓者本行開設在東營口輪船代理店海上火險公司及報客稅已有年矣今承關東總督府之特准開設東清鐵路公司運送貨物自牛家屯大連至昌圖府均有分棧大連鐵嶺另有分行并各有中國人辦事今又設理雜貨生意專辦上等石炭棉花火柴洋布旭牌皐酒日本清酒一概俱全另有清國人執事如蒙中外士商光顧請來元神廟街爲荷
松茂洋行(電話五十二番)

三井　電話 第六十六號 第九十一號

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗、棉布、火柴、煤炭糖、海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近恕蒙各商光顧請駕臨是荷

○發售新到洋白糖

倉庫部

今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は同所へ御照會被下度願上候
(電話百二十八号)

經理

○明治火險公司
本公司開立巳久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克巳秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議

○發售日本白米

○東京水險公司
啓者本公司開設在三井洋行內已久實存資本百五十萬元、分行、新加坡、倫敦、孟買、天津、上海、香港、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克巳秉公以廣招徠有願保平安、水漬、兵險者、請駕至本行面議

洋行　電話 第六十六號 第九十一號

生徒募集

營口瀛華實學院 招入學生

本學院肄業諸生頗著成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便茲因添設樓宇地勢寬宏學合宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白
營口瀛華實學院

今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し曩に督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし
營口 瀛華實學院

東清鐵道裕和盛運輸局 (電話八十一號)
在東營口西北街旗昌洋行對門

啓者本號向在日本長崎開設數十年并分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟兼代客報關裝船裝車今又承辦東清鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧
總司理主人 周鶴雲
運輸部主任 高濱麟太郎　謹啓

材木荒物販賣

秋田洋行
營口永世街第一八四號(小野町)
本店 下關 秋田寅之輔商店

稅關手續
一船舶代理
一貨物取扱
一委托販賣

幣公司昨年開業爾來引續キ營業罷在候處今般一層業務ヲ擴張シ艀船、市內貨物運搬及貨物保管等確實敏速ヲ旨トシ殊ニ爲替付荷物及諸雜費等御依賴ニ應シ御立換可仕尚其他精々御便利ヲ相計リ可申候間倍舊御用仰付ラレ度願上候也
綏定門街第五〇 營口英國領事館東首
三仁公司 (電話一五〇號)　小島榮歲

上海 中井洋行
專運日本各式紙料

本行開設已歷多年會與日本製造名廠料有專銷之約凡新聞紙料印書籍各式紙莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙訂五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本行出售貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也
中井洋行

●雜貨卸小賣商
●附日用食料品
●菓子製造販賣商
●委托販賣商
●土木建築受負業
●瀛車積運送業

新民府孫家街
東洋號

丸重洋行
貨物運輸

啓者本行前在營口臺實雜貨已有年今經關東總督府之特准開辦東清鐵路運貨不論貨種多少以安全迅速誠實廉値籌貨主之利便爲旨如蒙中外士商光顧請來營口西北街本洋行或牛家屯火車站構內分莊面議不悞
電話 營口 六拾番　牛家屯 四拾八番

新荷着
▲板材木▲木炭
▲生石灰▲竹
▲亞鉛板▲洋釘
▲日本米▲疊

喜久洋行
營口永世街八十號 (電話百五十二番)

太古輪船公司

啓者本公司自派溫州牛莊兩輪專走營口登州龍口一往一來接續不斷搭客配貨均由本行碼頭上落甚屬利便水脚素來公平船上應酬搭客無不週到歷經數年遠近馳名知者稱便用登報端以期廣告
營口 太古輪船公司

啓者有遼陽聚豐隆在遼買東升廣會票一張計廣字元壹聚豐隆名下營平銀壹仟零柒拾兩正係營口永遠興照付又買天和福一張字字一百六十二號聚豐隆名下營平銀伍佰叁拾伍兩係營口廣順棧照付又遼陽廣興義托聚豐隆客人王輔臣帶來營信內附會票一張在遼買公立公司公字二號秦峯鎮名下營平銀壹仟零柒拾兩係營莊滙源達照付以上會票於清歷三月初九日由遼陽乘火車赴營晚一點鐘行至牛家屯東在火車內被匪人切去並失去手票爲此聲明無論落在何人之手作爲廢紙望各中外官商切勿收用特此登報勿謂言之不預也

清歷三月十二日

遼陽　廣興義　聚豐隆　二家仝啓

東京電報

●青木大使の出發　青木駐米大使は夫人と共に今朝九時新橋發赴任の途に上れり

●進歩黨の門戸開放　進歩黨改革派の意見幹部に入れられ門戸を開放し人才を廣く求むるに決す解黨斷行は容れられず

●日英白合資のドック　日本英國及び白耳義三國人合資にて二萬噸迄の船舶を容れ得へき船渠を門司附近に設置の計畫略決定せり

●東京博覽會經費　四十年三月開設の東京博覽會は三十萬圓餘の豫算を決定せり

●露の第二平和會議　海牙に於ける第二回平和會議に關し露國は通牒を發せり清國政府及び日本は參列を求めたり

●維的伯の辭職說　首相ウイツテ伯は辭職の意あり遣外大使を希望の由報せらる

（以上四月六日發電）

北京電報

●内田公使の漢口行　張之洞と會見の爲め内田公使は五日出發漢口に向へり往復十日間の豫定

●西太后の賜宴　十三日西太后には内田公使夫人を招き送別の宴を開かせらるへし

●清露談判の再開始　清國政府より屢ゝ督促の結果露清談判の再開始を見るに至れり

●獨乙と大官の信頼　獨乙は近來頗る清國大官の信頼を博したるか如し

（以上四月六日發電）

倫敦電報

●議會の炭礦責任問題　佛國衆議院に於てクーリエール炭坑の爆發事件に關する討論中數名の代議士は嚴しく同炭礦會社の懈怠を詰責し該慘事の責任は同會社に在りと爲せり當局者は該事件に就ては充分に調査を命すへく調査の結査同會社の責任と決定する場合に於ては其礦業權を剝奪すへしと約言せり

●第二回平和會議　露國政府は七月十日を以てヘーグに於て第二回平和會議を開くへき旨列國に通牒して協議に及へり

（以上四月四日發電）

雜報

●外務と漁業問題　我領土に歸したる樺太南部に於ける露國人の長期漁業權は依然として之を追認するや否やに就ては陸軍及び農商務省は絶對に否認論を主張し外務當局者は議論としては右兩者に同意し居れるも區々たる漁業權の如きものに關し單に理論を以て之を否認するは國交の上に圓滑を缺くの虞ありとし之がため今日まで未だ何等の決定を見るに至らざりしが樺太民政長官も目下上京中なるを機とし陸軍外務農商務三省大臣並に關係高等官は同問題につき第一回會議を開きたる由なるが尚近日中に今一回會議を開き愈々決定する筈なりといふ

●東清鐵道の利益　東清鐵道は目下參謀本部に於て經營中なるが平和克復後凱旋軍隊の輸送及び駐屯軍の糧食供給等運搬の餘力を以て一般公衆の便乘を許したる結果日々旅行者の數を增加し昨今全線に於て一日料金二萬圓内外の收入を得るに至り尚奉天市の如きは日々一千圓以上の收入高に上り居る由なるが同鐵道を以て一般營業の方法に依り經營するとせば優に有利なる鐵道となるべく政府に於て經營せし京釜京義兩鐵道の比にあらざるべしと當局者は語れり

●米清貿易の趨勢　昨一年間に於ける米國の支那貿易は米品排斥運動熾なりしにも拘らず五百萬弗を增加したり然れども商品を注文して受渡を終るまでには數月間を要するが常なれば右昨年中の米品排斥が未だ著しく其の影響を現さゞるに依るならんと云へり

●膠州灣拋棄論　近時獨逸政府に於て膠州灣拋棄論を唱ふるものあるとは既報の如くなるが社會民主黨の機關新聞フォールウエルツは膠州灣借地以來獨逸は既に一億萬馬克を費やし夫の北清事件の如きも多少同灣の租借に因する所あり而して獨逸の之がため費やす所實に一億五千馬克に達し清國政府は卅ケ年に戰費の賠償を約すと雖も實際は利子と六十萬馬克の元金を入るゝのみにして現に本年度豫算によるも支那の獨逸に對する債務は二億七千三百萬馬克なるが故に今日までの如くして殘金を回收せんには清國が債務を免るゝは遠く五百五十五ケ年の後にありとて斷然膠州灣を拋棄せよとの論文を掲げ又フランクフルテル、ツアイツングは其後更に論じて「膠州灣を以て朝鮮の良港馬山浦と對峙すべきものたらしむる能はざるに止らず獨乙が恰も極東の一大良港たるを得るが如く信ずるは大なる誤なり況や政府は漫に膠州灣の商業進歩を云々するも決して日本人に打勝つことを得ず膠州灣は畢竟一個の官吏街たるのみ極東の政治的形勢は益ゝ同灣をして無價値ならしむるものにして今更青島に要塞を設け六千萬馬克を供せんとするが如きは無策なり」と論じ速に膠州灣に對する殖民政策を中止し膠州灣を清國に還付せよと勸告したりと

●靖國大祭參拜　五月上旬執行の靖國神社大祭に參拜すべき軍隊は陸軍にては四月三十日の觀兵式に參集する部隊其の儘なるが海軍にては品川沖に艦隊の大部を集合せしめ右艦隊は横須賀陸上勤務の兵員中より出來得る限り多數の部隊を參拜せしむべき方針なりと云ふ尚陸海軍とも四月二十日頃より三井集會所内に右總ての準備及び寄贈品等の取扱を開始する由なり

●露國鐵道敷設權讓渡　露國新聞ペテルスブルグ・ガゼットの報ずる所に據れば露國政府は西伯利亞鐵道と中央亞細亞線との連絡鐵道敷設權を米國の某シンヂケートへ三十六箇年間の契約にて讓渡する事となり去る二月十五日を以て一億四千萬留の保證金を露國帝國銀行に預け入れたり讓渡金額は四億萬留にして殘額は三月二日に拂込を了し同シンヂケートは二十四箇年間を經過せる後には同連絡線を他へ賣渡す事を得る權利を保留したりと云ふ

●佛國印度支那艦隊　佛國は今回印度支那の海軍組織を全然改正したるが新設印度支那艦隊は戰鬪艦ルドタープル（九、一六四噸司令官少將旗艦）外一等裝甲砲艦二隻、同非裝甲砲艦四隻、二等砲艦四隻、通報艦一隻等にして尚將來印度支那には柴棍移動防禦部、ウールセー港移動防禦部の二箇所を設置し驅逐艦及び水雷艇を存置せらるべしといふ

●英國大使更迭說　英國大使マクドナルド氏は今年五月賜暇歸國の豫定なるが目下外交社會に於ける風評に據れば氏は歸國の上他に榮轉し過般アーサー殿下に隨從して來朝したるリーズデール卿新に大使に任ぜられ氏の後任として本邦に駐紮を命ぜらるゝならんとの事なり

●關東州民政署豫算　三十九年度關東州民政署豫算は此程決定したる由なるが其歳入總額九十三萬八千百七十圓にして支出總額八十二萬八千四百九十六圓中なりといふ

●眞鍋中將の遼陽行　當地視察の爲め來營中の眞鍋中將は一昨午後八時廿五分牛家屯發列車にて遼陽へ向け出發せり

●五日間の居留出願者　解氷と同時に邦人の多數入込むべき事は豫め期待せる所なるが豫想に違はず續々來營し本月一日より五日間に於て當軍政署居留民係より居住認可を受けたる者一百餘人の多きに達し日々人の山をなせりと今其居留者中如何なる方面の人多きか其一例を掲ぐれば職人最も多く就中大工職非常に多數にて之れに次ぐは例の賤業婦等にして實業家も十餘名ありたりと云ふ兎に角渡營者の多きは喜ふべき現象なり

●鐵道輸送業者の會合　今春二萬圓の保證金を納附し東清道鐵輸送營業の許可を得たる十四名の同業者は此程同組合規約を協定し幹事三名を置くこととし總督府へ認可を申請せる所愈ゝ認可の指令に接せるを以て昨六日日本人會議室に於て同業者の集會を催うし役員の選擧を行ひたるに高坂千頭松倉善家舘石房吉三氏幹事に當選し更に互選を以て幹事長に松倉氏副幹事長に舘石氏會計主任に何れも當選し終りて二三業務上に就き協議する所ありて散會せりといふ

●山中師團長の來營　遼陽守備第十六師團長山中中將昨日午前七時牛家屯着當地視察の爲め來營せりと

●東北三縣知事の謝狀　先日東北三縣凶作地窮民へ送附せる義捐金に對し今回又々東北三縣知事より左の謝狀を寄せ來れるを以て掲げて義捐諸君の一粲に供す

拜啓貴社益々御繁榮恭賀の至りに候陳は宮城福島岩手三縣凶歉に付深厚なる同情を寄せられ貴社にて募集の義捐金四千七百二十二圓三十錢を東北三縣救恤會へ御送附相成候趣同會委員長富田鐵之助氏より申越有之不日受領の運びに有之御厚情の段幾多窮民の爲め誠に感佩の至りに堪へす候先は不取敢一應の御挨拶迄如斯に御座候敬具

明治三十九年三月二十八日

福島縣知事　有田義資
巖手縣知事　押川則吉
宮城縣知事　龜井英三郎

滿洲日報社御中

●明日の釋尊降誕會　明八日は恰も釋尊降誕日に相當するを以て當地駐在の古川恒川兩布敎使主催者と爲り明午後一時（營口時間）より日本人會會議室に於て釋尊降誕會を執行し併せて一場の法話を開演せらるゝ由なれば求道の善男善女は同刻參拜せらるべしとなり

●松榮座の女芝居　二本町松榮座に於て來る九日より源氏ぶし女芝居の興行ある由因に一行十八名にして中には營口式ドラ猫以上の素敵者あると云ふ噺く賑ふ事ならん

●遼河の運河開鑿の議を反駁す　小松海藏

戸水君足下、足下の益々健在なるを祝す。僕遼陽を過ぎるの砌り、厚意を忝うす多謝々々足下、足下の所謂遼河運河開鑿の議なる印刷物一葉を惠投さる、僕、歸途車窻より入る光線をぬすんで之を閲讀す、而かも足下の筆に成る近來の大不出來なり、足下駄法螺の材料とせん一時の戯れに記せしものなるか否歟、兎に角貴重用の紙を費し、鉛塹を惑し、而かも償ひ康ならさる印刷料を冗費す、餘りに誤念の入り過ぎたる惡戯ならすとせんや、若し夫れ足下眞面目の意見なりとせは、僕、足下の粗漫放縱の罪、之を詰責せすんはあらす。夫れ滿洲に於ける礦産、農産等多大の生産力を有することと僕輩も亦之を認む、渠を啓發誘導而して我亦之れによりて一大發展を試みさるへからさることたる不肖僕輩亦之を認む、殊に撫順烟臺二炭坑の如き我皇國か莫大の犧牲と資金とを投して獲得したるものにして向來大々的に開發して一大財源と爲さゝるへからさる豈敢て僕輩の贅々を要せん。

現下の輸送力や不充分なる僕亦足下と觀を等しうす、然りと雖も之れか改良方法にいたりては一言も鐵道の事に及はす、直に取りて以て運河開鑿を唱ふ、而かも滿洲の發展は之より他にあらさるを知ると斷言するにいたりては僕輩足下の盲滅法餘りに大膽無鐵砲なるに吃驚せすんはあらす。ロシ足下の言ふ所多少の理ありとするも、而かも何か故に鐵道の改良と比較を取つて以て之を論せさりしか、目下の鐵道なるものは占領當時、兵馬倉卒の際、一時を彌縫し輸送の業務を盡せさるへからさるものなるによりて早晩之か改善を盡せさるへからさるは足下亦之れを覺らむ、唯廣軌か複線か、廣軌も亦京釜の四呎八吋式か、露的の五呎式か之れを知らす、或は又單線か複線か之れをも知らすと雖も、兎に角比較を鐵道に取りて斷案を下さゝれば誰れか足下の說を信せんや矧んや、遼河輸送に力を專らにせんと計畫するの謂れなきの謬說なるに於ておや。

足下、足下は遼河に於ける舟楫如何即ち貨物輸送の狀況を知れるや否、遼河は冬期結氷するにあらすや、舟楫の中途厘金稅なるもの賦課せらるゝにあらすや、更らに又馬賊稅なるもの仕拂はさるべからさるの舊慣否之れを仕拂ふて馬賊保險を爲さゝるへからす、就中通江口方面に於ける山西商人の專横、冬期中に於ける農產物、雨期中に於ける輸入貨物等に對する最高率の荷爲替或は貸金其他間接直接に滿洲の農家は渠山西商人の爲めに苦痛を與えられつゝある也。

鐵道開通以前は知らす、開通せる今日假令迂愚血の廻り鈍き滿洲住民と雖も永く此不利益を甘受するものならんや漸次鐵路を取るの利なるを覺るを知るや燎々乎として火を覩るより明かなり足下の議中に於ける數理的說明は、鐵道輸送力、回數、牽引力等總てを目下の現況に逃るものなり、杜撰にして取るに足らす、殊に運河鑿開工事豫算の如き單に一坪一圓とすれは幾何と言ふに過きすして測量費、設計費、殊に矧んや其費莫大なるへき護岸工事費、〆切工事費、器械購入費等を計入せす、ヨシ土工費のみとするも僅々一坪一圓を以て成効し得へからす、要するに到底豫算の資格を有せさる見るに足らさる粗笨の誤なりと斷言するを憚からさる也。足下、足下は漢學と法學に多少の素養あり、怪しきものなから書畫骨董の鑑定、最も得意なる俳優談、謠曲、長唄常盤津、端唄、淨瑠璃（淸元は聞たことなし……濱栖爺曰く勿論下手ツ粕なから本人は大得意なり）多少三味線に合ふ所ありと雖も工學に經濟學は門外漢なり、滿洲に於ける輸送問題の如き大問題、足下之れに容喙せんとす、以て資格なしと爲して忌避せすんはあらす、若し足下にして强て之を啜々せんとせば須く腰行厨に鞋穿きにて實地を踏査すへし（踏査したり迚到るまいナレド）金を散して調査せしむべし、專門家に聞くへし。當局者に議るへし、而して自巳の定見を作らは蓋し謬り少なからむ。以上纏述するか如く足下の運河開鑿の議なるもの根本を誤まるのみならす杜撰粗漫の甚しきものはなれは第一人に示さゝらんことを希ふ、何となれは識者は以て一笑に附せん、サレド田舍者は行儀よく配列されたる活字の刷紙に眩惑し否ヱンナ立派な洋紙に印刷する位だから立派な議論ダンベイと傾首するにやいたらむ、言さるもの言害なし請ふ足下之を撤回せよ、僕もと學淺く文拙なし敢て廻らぬ筆を弄して特に足下にを呈する所以のもの一片の婆心足下をして反省せしめんと欲すれはなり、足下之を諒せよ。

投書かご

▲小生は在營洋服裁縫業者の一人でございますが昨紙投書籠中に洋服裁縫業者の事がありましたが一體洋服の裁縫といふは一の技術にして縫式などには一定の規則といふもの無く腕次第にて善くも爲り惡くも爲るものでありますから單に大連の比較のみを取つて營口の洋服裁縫業者を攻擊せらるゝは甚だ遺憾の至りである御注文主に於ても尚御研究の上に我々共の決して暴利を貪るので無いといふ事を御承知相成たいのである（遺憾生）▲在西營口の一人が言ふやうに近頃電報が何時も遲れるので商業上大變な差間を來し間々損害を釀す事があるのには閉口とも何とも言へぬそれに配達夫などの言ひ草が面白い『隨分懸け離れて居るものですから成るとなら取に來て貰へんだらうか』など閑氣な事を言つて居る言語同斷の話だやドシ〳〵遣つ付けるがよい僕も一方の旗頭と爲つて總攻擊の加勢をする（西營口の似し閉口）▲電報配達が一日も遲れる爲に損害を來す事が起つたら何の事は無い郵便局相手に損害賠償訴訟事件を引き起し給へ（辨護士の居候）▲蛙面生昨日の投書は痛快であつたぞ是からドシ〳〵遣り給へ總て氣狂の樣な事をする者はドシ〳〵やるに限る（加担生）

●不埒の所業（料理店）　永世街醉月主は元と九州生れて臺灣の人夫揚りと言へば大底品性も知れたものだが彼奴五十面らを下げながら本妻は臺灣とかに祭り込み妾を當地の女將と仰ぎ子迄ある仲なるに又々抱へ藝者とか下女とか未だ肩上げのとれぬ名は何だか藤とかかつらとかに緣ある十八島田を引張り込み女將と三人一室に寢起きをするは如何にも睦まじさうに見ゆるが何時も女將が人なき所でクシクシ泣いて居る樣子が變だと段々取調べて見ればく泣もおめくも最も至極何しろ女將を側に寢かしてけしからぬ所業をするさうな如何に臺灣や支那に慣れたといへ沙汰の限りの仕業なり彼樣の奴だから女を抱かねばお客扱ひはせず料理は馬鹿に高く其くせ注文もせぬにドシ〳〵押し付け如何に顏なじみでも翌日は矢の如くに催促をする若し夫れが二日でも三日でも延びる樣な事だと仲居や對妓を苛めるさふな此間も何とか言ふ藝者は苛責に堪へかねて飛び出したさうなかチヤンクイ大にびつくりして早速其筋へ保護願とかに出頭したが今に蹤跡不明で泣寢入とは氣味のよい話なりとは投書の儘を

●小三の意氣　第三樓の小三といへば已に其筋の方の先刻御承知の同樓にて相等の流行妓なるが仝人は振分髪の昔より末は夫婦と親の許せし目今東京高等商業學校優等學生に某と云ふ男あり彼が其半生の歷史が藝妓と云ふ二字にあるも遠く滿洲に侵入し軍票男を對手に力戰するも他に欲望を有するなく皆某の學資を潤澤ならしめん爲め常に仝人は口にすらく長年の苦心も漸く其効あらわれ本年は卒業期に當たる事故今の内に充分鼻下長連をしぼり上げ歐米へ二三年留學させる資金を造り立派な人として今オイコラなんか云ふ人に他日令夫人と崇がめさせんと力み居れり意其氣や愛すべしとは是れも投書を其儘

大車
▲上行車時刻表　車站名　新民屯　亞壽那子　午開點分　上六、〇〇　到午點分　上九、五七
▲下行車時刻表　車站名　開午點分　到午點分
税關手續　一、船舶輸出入荷物取扱
諸鐵工製作　鐵
四月八日（營口時間）午後一時ヨリ日本人會々場
天氣豫報　營口地方　自六日午後六時至七日午後六時

小說

新作小說　おとし胤（三十）　德田秋聲

健三は、頭を垂れ、腕を組むで、靜に我が家の方へ足を向けた。考へると惡い心が、追々と蔓ツて行くやうに思はれる。餘程耐えて見るけれども何うしても、此の手紙が見たい。一ツは、光のことが心配になるからでもあるけれども、此の手紙が見たくて見たくてならぬ。それで彼は、家へ歸るまで「見やうか、見まいか。」と切ない考に、心を苦しめてゐた。巧く寛齋老人を欺いて、第一の「惡」に成功した彼は、更に第二の「惡」を遂行しやうといふのである。

健三は、木小屋のやうな自分の家へ歸ツて來た。雨戸に片手を掛けた時に、ふと東の空を振仰いで、

「光さん、今頃何處まで行ツたらうな。」

其の方角には、大きな星が一ツ、爛々として靈あるが如く輝いてゐた。何うしたのか、自と涙が頬に傳ツて來る。胸には、悲哀の感が滿渡ツてゐた。

彼の頭の上には、白桃の花が一トところ、微に白く闇を拔いてゐた。

健三は、がらり雨戸を啓けて、

「母樣、今歸えツた。」

「おゝ、健三か。今頃まで何處にゐたゝ？」

「何處にゐたツて、烏渡先生の許へ寄ツて來たのだよ。」

「それにしても午も喰はねえで、何うしたといふのだね。」

「何有にね、少し相談することがあツたから、父樣の許まで行ツて來たんだ。」

「父樣の許まで？………炭燒場まで行ツて來たのか。」

健三の父は、此の村から三里ばかり山へ入ツた山で炭を燒いてゐるのである。

「然うだよ、炭燒場まで行ツて來たんだ。」

道理こそ、光は、奈何に待ツても健三に逢はれなかツたのである。

「行くのなら、然う謂ツて行けば可いのによ、俺も言傳けることがあツたゝに！」

「でも、母樣、急に行く用が出來たゝから、爲方がねゝさ。兄さん、もう寢て了ツたゝね。彥吉（弟）も………」

「あゝ。」と母親は、內職に蠟燭の芯を卷いてゐたのを片寄せて「其ンでは、お腹が空いてゐる事ンだらう。どれ、御飯をして遣るかな。」

「いんね！　母樣、飯喰ひたくねえてとよ。」

「何故な？」

と母親は、魂消げた顏をする。

「何故ツて、別に、故もねえだけれど………」

「然う謂へば、先生の許の孃さん、今日急に東京の方さ行がしたてと知ツてゐるだかな。」

「然うだツてな、今先生に聞いて來たが、魂消げたてとよ。何んだツて、其樣なに急に發足しやれたもんだかな。」と空恍けるやうに謂ツて、

「最も孃さん、今朝万一とすると東京さ行くかも知れねえとは謂ツてござらしたがな。」

「何にしろ、先生は、えらお困りなさる事ンだらうさ。」

「それよ、其の事で、俺あ實は、父樣の許まで行ツて來たゝ。」と健三は思切ツたやうに謂ツて

「俺、先生の許さ行ツて、先生の世話して進げやうかと思ツて、父樣に相談に行ツたんだ。」

「然うさの、それは非い工夫でも無ゑが、父樣何んと謂ツてゐたゝな。それから先生も何んと有仰るもんだかさ？………　汝がには、好な學問が出來て、好いことは好いけれども。」

「先生も父樣も、些ツとも異議は無えさ。母樣だけ承知して呉れゝば、それで話は纒るのだ。」

「俺に何んの異議があるもんで………」

「然うか。それで俺も安心した。」

親子遠慮の無い高聲の話。小夜更けて村は靜に奧の納戶では、兄や弟の鼾の音が高く聞える。此の間に母親は、焚殘りの柴を繕ツて圍爐裏に火を焚いた。柴は、パット燃上ツて、家の裡は明くなツた。藥罐の湯は、滚ツ滚ツと沸り出す。健三は、圍爐裏の傍に體を橫にして、草臥れた足を伸ばしながら、眼を瞑ツて、またも物思に沈む。彼の魂は、此の家を脫出して、光の後を追ツて、遠く東の空に駈廻るのであツた。

少時經ツた。爐の火は消々になツて、カンテラの火影も眠さうになツた。母親はもう向刻に臥床へ入ツて了ツて、鼠が其處らを駈廻ツてゐるばかり。健三は此の時までも、橫になツたまゝ頰杖を突いて、身動もせずに何やら一心に考窮めてゐた。不意に彼は、物の怪にでも脅かされたやうに飛起きた。そしてきよろ〳〵其處らを見廻した。

見廻してから、彼は靜に立起ツた。それから四下へ心を配りながら、鷲足で戸口の錠を固く下ろして來たそして、舊の座へ戻ツて、懷中から彼の手紙を取出した。途端に、けゝけツけけツ、鷄の夜啼！　それを耳にも介けず、健三は突如手紙の封を切ツた。

●營口花信　春は來れども花咲かずなど野暮な事は言はしやいますなよ泥田の中からも蓮が咲く砂畑の營口豈花無からんやだドレ營口の我花信を書いて見ようか▲春帆樓に其人ありと聞えたるおりん丈は今度といふ今度こそ愈〻堅氣に爲つて此摩耶山丸で御歸朝なさいますさうおや丸髷に黑の三つ紋羽織とは能くも油拔けのした御扮裝で居らしやいますと併し御亭主は是れから綏る〳〵お探しとのとである▲高砂樓の或姐さんは在營口歷々の某紳士の胤を宿して此頃出產したが月足らずでホヤヤとも言はずに出て來たので其儘某病院の標本室へ………姐さんと紳士てえば誰れだらう▲日本館へ三勝といふ三毛猫が新に來たそれは〳〵朝鮮八道を荒して來た大ドラ猫ぢやげな日本館さん貴方は『今度朝鮮より大虎新來仕皆樣御贔負』テ廣告でもお出しに爲つたら如何でせう屹度當りますぞ▲祇園閣のお後讓御慶事前に御引籠りとは御氣の毒樣ですなそれでは怪談萬丈もチツト御遠慮の方でせうな▲某病院の何田看護婦の許へ今度の船で三人の女居候が來て厄介に爲つて居るげな何れ天草者だらうが追々芽が出し花が咲くとに爲るでせうよ▲近頃花街の大問題といへば此程アツセンブリー、ホールで三井支店長來任披露宴會の祝儀の行衛である藝者の手に渡らず樓主の懷に入らず何うしたんだらう春先には虱に迄羽が生へて飛ぶといふからお金にも定めて羽が生へて飛んだのでせうとは是れは第〇〇側の見解である▲高砂は今度料理店を止めて旅館を專業とするさうなが十郎さんは本日鐵嶺へ前進とは芽出たし〳〵（自稱粹人投）

廣告

廣告

一生石灰　五千鑵

入札保證金各自見積代價百分ノ五以上
右購買す入札望の者は本月十三日までに當署經理課に就き入札心得書、契約書案、見本熟覽の上同十五日午前十一時入札すべし即時開札す
此契約は營口軍政官與倉喜平担任す
明治三十九年四月一日
營口軍政署

爲替劵盜難廣告

弊號（聚豐隆）は先に遼陽東昇廣より爲替劵廣元號聚豐隆名下營平銀弐千七拾兩營口永遠興の支拂に係る一通及全地天和福より字百六十二號聚豐隆名下營平銀五百三十五兩營口廣順棧の支拂に係る一通又弊號（廣興義）は遼陽公立公司公字二號泰峯鎮名下營平銀壹千七拾兩營口匯源達の支拂に係る一通、を受買け以上三通を遼陽瀛軍に乘し牛家屯に達せんとする翌午前一時頃車內に於て盜賊に刧かされ前記三通の爲替劵及所持金を奪取せらる依て前記三通の爲替劵は何人の手に渡るとも全然無効に付茲に紙上を以て特に廣告候也
月　日
遼陽　廣興義
聚豐隆

質屋營業

益々勉强御便宜相計り可申上候間多少に不拘御仰付け被下度願上候
營口永世街南憲第三十六號
北斗洋行質屋部

法律事務所の開始

生儀前ニ判事并ニ地方法院長等の官職に歷任し及び辯護士の職務を行ひしこと多年今般民刑訴訟の代理刑事被告事件の辯護訴訟事件の鑑定契約書起案法律顧問等總て法律に關する諸般業務の依賴に應ず
營口永世街金城館南隣り
小林法律事務所
從七位勳六等　小林一生
○但し應接時間は午後四時限り夜分の面會は絕對に謝絕す

鐵嶺
西門外大通
御旅館
福屋
御料理

和洋會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
營口永世街二本町
日本館（電話百三十）
各位樣

千　万　客　来

東營口郵便局東隣
島田洋服店
新民屯停車場前
同　支店

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
▲患者の入院治療を諾す
▲貧困患者の施療は正午十二時より二時迄
姙婦の入院を諾す（產婆大道しげ子）
院長　醫學得業士　森　矯
副院長　醫學得業士　長船郁太郎
◎院長森矯久敷歸朝中の處今般歸營診療に從事す
◎本院齒科開設　齒科醫　兒島市郎
本月十五日より開設す
森病院

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開放全時一開業
奉天小西門外ナ街路北

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL EGINNEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

御旅館　豐陽館
上海（電話一〇六番）
日本郵船會社荷客取扱
歐米瀛船乘船取扱
館主　米田藤吉

大阪商船會社荷客取扱所
內外船舶代理店　船舶貸借仲立
水陸輸送貨物仲次
艀船人夫運搬請負
輸出入稅關手續
倉庫業
諸品委托賣買
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候瀛船御乘船之御方樣は御一報次第切符持參仕候尙御手廻り貨物持運ヒ等當店送迎組ニ御用仰付被下候へハ迅速確實ニ御取扱可申上候
西北街　德重洋行
末廣丸（一五〇〇噸）　四月八日午后門司、新潟行

故沖禎介

追悼の爲め江湖諸賢より玉梓して一の紀念帖と爲し度き旨同存父沖莊藏氏より通知有之候就ては其紙數を一葉にても多からしめ以て存亡父子共の光榮を大ならしめ度くと存候間廣く江湖の同情を得度廣告候也
一、刻版は四月中に取かゝる事と存候
一、紙判は美濃紙大
一、沖莊藏在沖繩縣那覇地方裁判所官舍
御問合の件あらば左に
新民府奈良崎八郎
營口瀛華學院上野政則
大淸通運公司安田貞藏
同志友人　敬白

お料理
滿月（電一六二）
滿月支店（元都樓跡）

料理部開業披露

弊館是迄旅館專業に御座候處今般新に料理部を開設し聊か紳士諸君の御引立に報ひんと存候就て大座敷向き等も凡て改築仕日本式の粹を拔き藝妓仲居も弊店付として內地より二十五名計り呼寄せ特に料理は東京有名の厨士を聘し材料に乏しき當地にては不可得珍味佳肴を供すべく一切の準備相整愈〻本日より安直を旨とし開業仕候間何卒販々敷御來遊の程偏に奉希上候
追而料理部開業と共に旅館部にも改良を施し御客樣の御便利御計可申候間不相變御引立の程願上候

旅館料理　第一營口ホテル　第一樓（電話八四）

和田保　牛莊分莊　本店大坂

石材、砕石
並に自家製造
瓦、煉瓦
廉價販賣

營口元神廟街四十號第二號
順吉洋行

CARTRIDGES.

We have just receiveda large assortment of Sporing Cartridges for 8, 10 & 12 bore Guns which weare prepared to supply at moderate prices, cash with order.

Apply to,
BUSH BROS.

獵銃彈新荷着
第八、第十、第十二號獵銃彈新荷到着廉價にて販賣致候間多少に拘はらず御注文被下度候
但貸賣一切御斷申候
ブッシ商會

本家 日本東京神田鍛冶町 堀内大藥房

淺田飴
あさだあめ

肺癆痰喘氣急傷風發熱小兒風疹病後體弱肺病一切立見奇功
◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

有名賣藥醫藥醫科器械卸小賣
永世街 東瀛大藥房
房主 藥劑師中馬能造

Yano & Co.
矢野洋行
電話一三七 Telephone No. 137

諸雜貨、家道具類、吳服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段ハ極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候
謹言

清國營口二本町二五五號
主任 鹽川峯吉 (電話一三六番)

發賣 料木 標子 木級
◇一 塩川商會
遼陽小西門內 鹽川商會

●建築用材 外に
電柱用材杉丸太長(自二十尺至三十尺)八千本
北海道產松大角(自廿五尺至三十尺)一万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

大連市信濃町卅九號地
旅人宿 東館
特別ト親切ヲ旨トシ且ツ廉價ニ御取扱可申候

醇良自釀清酒

札幌ビール
朝日ビール
口付莨大和
酢
醬油瓶詰樽詰
菓子色々
鑵詰
洋酒類
右取次販賣
牛莊港東營口
宅合名會社營口支店

大日本東京
本山崎帝國堂葯房處修舖

腦丸
腦丸者天下唯一之腦病靈藥也腦病の名藥にして他に類なし

天授
天授者天下多多有咳嗽藥中之冠也たんせき、ねつさましの一切の妙藥

大清國
營口大街(永世街二本町)
藥司洋行 淺野爲三郎
藥劑士
福壽堂 大葯房
醫械藥材有名靈藥 總發賣處
總批發處

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣

江副洋行
營口永世街

廣告
當公司今般業務擴張の爲め特に敏腕熟練なる技術者數名を聘し公私を問はず和洋各種の建築及土木事業に關する製圖設計監督の依托に應し最も懇切敏速に處辨す
建築部主任技師工學士 森川範一
土木部主任技師 永原万吉
營口元神廟街第百七十二號(電話一七三番)
土木建築請負業 井上公司

萬代不朽毛製屋根瓦ラバロイド及リサイト販賣廣告
ラバロイドルーヒングは堅牢にして極寒炎暑の候に耐へ如何なる地にても不適の場所なく龜裂破損漏水の憂なく良く極寒炎暑の地に適し床及階段等の敷物に有効なり
リサイトは室內裝飾塗料にして通常ペンキの如く臭氣なく變色の憂決してなし
米國紐育スターンダードペイント會社東洋特約一手直輸入販賣元穴原商會營口特約販賣店
營口元神廟街第百七十二号(電話一七三番)
井上公司

官製口付莨、文房具
和洋酒類
鑵詰、菓子
藥品、雜貨
醬油瓶樽詰
防寒具、安價販賣
白米 卸商
營口西北街
(十一) 豐生洋行
(電話十三番)

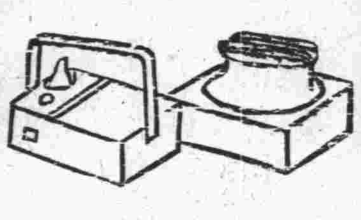
軍隊用雜貨
日用品雜貨
吳服太物類
化粧品類
陶器類
食料品類
卸小賣
其外新荷着續々安價販賣
營口永世街七十號(第二市場東)
石原商店

萬事勉強乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館 東京樓
店主 熊田兼次郎 (電話百七十八番)

西洋料理仕出し御需に應ず
御席和洋料理 東京樓支店 (電話四十四番)

一料理用白味噌、赤味噌、
一煙草類、東京淺草海苔、木炭、萬醬油、白米、鰹節等
一鑵詰類、
一瓶詰雲丹、酒盜、コノワタ、
一清酒澤龜特約並に瓶詰、
一酢、ビール、葡萄酒、洋酒類、
其他日用品乾物雜貨新荷着仕候に付多少に拘らず御用仰付られ度伏て奉願上候也
東營口永世街第廿八号
雜貨商 大原洋行

會席料理
三日月
營口警務課前南に入る

御手輕料理
一釜飯御一人前 五十錢より
一卷壽し 一本 十五錢より
一湯豆腐 一壺 廿五錢より
一東京壽し 一人前 卅五錢より
右之外御誂に應す
月日
營口元神廟街二〇九號

翁亭

廣告
齒の衛生治療は一日も等閑に附すへからず然るに當營口に良齒科醫無きは予輩の最も遺憾とする所なるを以て今回二三有志相謀り目下天津佛租界に於て開業し內外人の信用を博せる齒科醫田添豐三君の出張治療を乞へるに快諾を得來月上旬より本埠マンヂウリヤ、ヘウスに於て約三週間許治療に從事せらるゝを以て齒患に艱やまるゝ諸君及ひ齒の衛生を重んせらるゝ諸君は此好機を逸せず續々治療を受けられんことを望む尙同君來營の期日は重ねて紙上に廣告すべし
三月三十日
營口有志者白

奏議

頭品頂戴兵部尙書衔署理兩江總督山東巡撫臣周馥跪
奏爲買賣人口有傷天地之和未洽文明之化請　旨禁革
以昭仁政恭摺仰祈　　聖鑒事竊惟天生萬物人爲貴聖王
御宇首重民生凡屬戴髮含齒之倫皆在覆育生成之列若於
微賤無告之民有所歧視使不得自等於人類非盛世仁政所
宜有也中國三代盛時無買賣人口之事惟罪人乃爲奴隸周
室之衰始有鬻身之說秦漢以後變而加厲以奴婢與財物同
論直不以人類視之舉動不得自由牛殺悉憑主命相沿成俗
視爲固然我　朝定例逐漸從寬徽甯世僕則開豁爲良買
貴州窮子女則定以限制並將奴婢有罪不告官司而毆殺者
治罪白契所買家奴與僱工同論已疊次推恩有加無已然仍
准立契買賣本源不塞徒挽末流補救終屬有限貧家子女一
經賣入人手身命即屬於人不復能以自主幸遇仁慈之主尙
可偷生儻遭殘暴之家或虐使等於犬馬苛待甚於罪囚呼籲
無門束手待斃慘酷有不忍言者同此生人獨無生趣實足以
干天地之和而累　聖明之治泰西歐美諸邦前者競尙蓄
奴獸蓄豕犬慘無人理近數十年治化日進深知此爲野蠻陋
習非文明之國所宜英國則縻數千萬金幣贖免全國之奴美
國則以釋奴之令兵爭累歲卒盡釋放義聲所播各國從風全
洲遂無復有蓄奴之家他洲蓄奴者咸以野蠻視之遇有販賣
人者各國皆得詰問誠以好生之德率土所同重視民命爲天
下之公理也今我　聖朝振興政治改訂法律百度維新獨
買賣人口一端既爲古昔所本無又爲環球所不韙而猶因循
未革非所以新　盛治而示列邦也臣愚擬請　特沛殊
恩　明降諭旨革除此習嗣後無論滿漢官員軍民人等永
禁買賣人口違者以違　制論其使用奴婢祇准價僱納妾祇
准媒說從前原有之奴婢一律以雇工論身體許其自主有犯
按僱工科斷所有律例內關涉奴婢諸條悉予刪除將見
皇仁所被萬類昭蘇義聞所宣寰瀛翕服蔚爲曠古未有之盛
舉雖漢文帝之除肉刑唐太宗之放宮人未足方　聖德於
萬一也其辦理節目謹酌擬條欵六條開具淸單恭呈　御
覽仰祈　勑下政務處會同各部覈議請　旨施行微臣
愚昧之見是否有當理合恭摺具　奏伏乞　皇太后
皇上聖鑒訓示謹　奏奉　硃批政務處會同各該衙議奏單
併發欽此

謹將酌擬禁革買賣人口條款六條開具淸單恭呈　御覽
計開　一定例契買家人婢女旗人赴兩翼印契民人赴地
方官印契儻有願用白契價買者仍從其便嗣後此例停止無
論紅白契均不准以人口買賣如違買者賣者均照違　制律
治罪身價入官人口發還　一地方偶遇凶荒貧民子女不能
養贍前准鬻賣可冀生全今既不准出賣應籌兩全之法嗣後
貧民幼稚子女不能養贍者准其議定年限立據作爲雇工先
給雇價多少彼此面訂雇定之時不問男女長幼總以扣至本
人二十五歲爲限祇准減少不准加多如雇時十歲不得過十
五年九歲不得過十六年之類願減少者聽限滿聽歸本家若
限內雇主欲帶至遠方應與本家言明情願者聽其帶往其回
家盤費由雇主認給本家不願者繳還未滿工價將子女領回
其限滿後無家可歸者男子聽其自立若欲再雇彼此情願准
另立據訂僱按年論値女子如母家無人交其近屬親族領回
婚配此等僱工與契買奴婢不同主家當以僱工之例相待不
得凌虐儻僱限以內主家有虐待情事准本家繳還未滿工價
領回自便　一官員軍民人等從前原有之契買奴婢及世僕
嗣後概以僱工相待身體許其自主彼此有犯悉按僱工律例
科斷其受役年限總以本人二十五歲爲限限滿之後一切均
照新例辦理其婢女無近屬親族可交者婚配可由主家主婚
不得收受身價仍須男女自相情願主家不得抑勒　一納妾
者不准價買祇准媒說務須兩相情願不得抑勒毋家准其看
視惟仍當恪守妾媵名分不許僭越　一舊例祇准父母賣
其未經訂婚之親生子女此外皆不准賣如長尊賣其卑幼夫
賣其妻翁姑賣其媳等皆干例禁而世俗不知律例每視爲分
所當賣又貲良爲娼例禁尤嚴而利之所在犯者不免今舊例
准賣之親生子女已在禁革之列其舊例本不准賣諸條應再
嚴切申明責令地方官實力奉行明白宣禁不得視爲具文有
名無實以致無辜枉被屈抑　一此議如蒙　俞允請　勑
下各省刊刻謄黃徧行張貼俾衆周知奉　硃批覽欽此

中外要聞

●振興旗兵　鐵寶臣大軍機昨與慶邸議商將八旗前鋒護軍營內挑選精壯兵共四千名均練東洋操法並擬請東洋敎習十員分往各營敎練而成勁旅

●東撫實授消息　官場最靠消息山東署撫楊士驤辦理地方以至交涉事宜均稱妥善不日將有實授魯撫之任云

●俄館消息　昨俄北館王敎將執堂神父昂德哩氏並宗徒六人派往新疆因係最急最要之事並未向外部領取護照俄館人云璞公使諭知守門人等除本國人可以面見如中國官員來館只說有病不能會晤云云

●危言聳聽　聞外部秘秘消息日前某國公使至署會晤言法國敎案該公使要求賠欵黜官諸多無理中國儻不依允法國將用强硬手段恫喝恐中法有搆兵之事又云本國與中國邦交篤誼願保某地全省不需中國兵餉等語

●敎員不孚輿望　東淸鐵路學堂因監督敎習辦理諸多不公由三月初一日各學生同堂罷課聞已擬妥禀呈投遞學部恭候批示將來該堂監督塔君敎習卜君必與各學生起一衝突也

●政務添員　聞政務處人云現在公事日積月累每日王大臣來此議政閱摺手口無停昨各大臣擬奏請添派議政參丞四員以資襄助某大臣以此職非熟於公事者不堪勝任若請旨派員尙恐與公事不宜應向某邸熟商指名奏保某員庶與政事不致隔膜云云（按此各大臣均有保奏之人已議商二日矣）

●敎案平和辦法　聞官場最近消息南昌敎案如不得了結中國將求英美兩國代爲調停以期和平了事云云

●俄使妙想　昨聞俄館消息璞公使現與該國政府電商凡傳敎之省均設領事一員衛敎兵○○名不日即與外部議商矣

●幼武興學　練兵處王大臣會議京內八旗子弟每以幼弱藉詞學堂練兵均不咨送此次擬添設幼武學堂專挑十歲至十六歲以內之旗丁以三年爲限方准在旗食餉云云

雜報

●外部計畫　日前外務部那唐聯各堂憲分往英法美各公使館拜會聞係請各公使轉電江西各領事員禁止兵輪前往及停泊之處早請馳歸免致商民驚恐匪徒暴動又生他項交涉云云

●整頓稅務　聞官場人云崇文門稅司章程鐵軍機日前與慶邸議商改良收稅則例其中各條欵與赫稅司參訂云云

●電告蒙古伊盟各旗靜謐　日前綏遠城將軍貽軍帥電奏略謂前因準爾旗逆犯丹丕爾由南坪逃後率領悍黨北竄到處勾結蒙漢奸民煽亂猖獗自各兵隊追抵豹子塔崔成寨剿捕首從各犯後羽黨四散紛逃現已委員巡察各處旋據稟覆近日伊盟各旗亂黨皆散靜謐如常

●俄國籌辦國債之說　俄國現在竭力維持財政俄國財政代表員現懇求德法兩國銀行之總理籌辦國債一百二十兆元此事尙未議妥因摩洛哥問題未曾議結幷聞俄財政員與某銀行訂立國債合同擬以九三起碼收入恐係無根之言矣

●刼財被獲　前夕鐵嶺汽車至牛家屯搭坐夫婦一人并一穉女橐中置有銀洋百數十元懷囊各有手票十數元及簪環等件下車尋店突來五賊將所有財物搜刼被巡兵得悉綁至埠內東衙署云

●蓋城煙捐　昨聞蓋城來人云該城縣尊劉君前承督憲趙次帥札飭凡商家市貨概按新章徵捐雖由他埠販去貨物以及行客羈橐樸被諸捲亦須檢查驗徵現下遍派捐役稽查所有煙舖存煙多寡注簿相傳每市壹斤捐東錢壹百文云

●仍敦邦交　昨聞河北來人云前日有一俄國大員乘坐頭等汽車直抵河北河南俄國領事即轉向日軍憲請求小輪船迎逆該大員過埠云

叢談

●剛毅本性之言　剛毅之論列人品也分爲五等以滿人之不識字者爲上漢人之不識字者次之滿人之識字者爲第三等漢人之識字者爲第四等而以漢人之淹傳爲第五等且從而論之曰我朝入關之初王公將帥何嘗有識字者而百戰百勝一統中國惟其後滿人之將相識字者漸多而中國亦漸弱蓋人能不識字必悃愊無華較有血性也一時竟有聞之嘆爲名言　剛毅至金陵時學堂總辦蒯禮卿觀察光典謁之剛曰吾不解南省人何以喜創學堂多一學堂即多着無數漢奸耳蒯曰是在辦之如何耳若不得法則一政令無不有流弊卽方今以團練爲要政若不得其法平添數十萬土匪耳剛毅默然

●最有敎育之國民　瑞典腦威兩國國民達丁年以上而不解文字者殆無一人其次不識字之最少者爲德意志聯邦之巴維里亞云

●十五萬元之食品　美國製鋼會社社長休阿普氏刻向英國普洛卑典斯商會計購銀製食器一副其價爲十五萬元

●阿爾然丁國之農業　南美阿爾然丁共和國適於農耕地之面積有一億二千萬英畝其內既耕之面積僅一千五百萬英畝而已夫該國之位置不適爲大工業國故爲農業國則將來頗有厚望然該國人口五百萬人中業農者僅二百萬人故欲其農業之發達甚非易易然該國今者固已頻輸入新式農具而力圖改良矣

NEWCHWANG, SATURDAY, APRIL 7, 1906.

A Kindness That Is Not Wasted.—(Part VII.)

The Shanghai correspondent of the "Timas" writing under the heading "China for the Chinese" is quoted by our esteemed senior the "China Times" in its issue on the 27th ult., as saying in the course of an able comprehensive treatment of the subject: "By the more careful selection and training of Chinese students in Japan and by equally careful selection and supervision of the Japanese engaged for educational and other work in China, much can be done to eradicate and check the present trend of public opinion" (bent upon a run-away race after impracticable reforms.)

Exactly so.

That the Japanese Government has early recognized its duty to China of exercising greater care in the training of the Chinese students in Japan has been attested by imposing a set of unwelcome restrictions on them. We trust that, in the selection and supervision of the Japanese engaged by China, also, equally rigorous attention has been spent and more will be yet brought to play, that China may find in Japanese tutelage the least cause for complaint or regret.

Newchwang has been honoured with a visit from some distinguished British travellers. Sir Hulbert Jerningham, Earl of Leitrim, and Mr. E. Cranstoun arrived from Port Arthur yesterday afternoon, and have registered at the "Manchuria." The illustrious tourists will start to-day for Mukden, thence to proceed back to Japan by the way of Korea.

We feel no little embarrassed at our inadvertence in failing to offer earlier a cordial welcome to Madame Beltchenko who arrived at the port with the new Russian Consul last Monday.

Mr. and Mrs. A. G. Cox came across the river last evening to stay for a few days as guests at the American-Consulate-General.

Mr. A. I. H. Carlill, senior member of Messrs. Dodwell and Co., Shanghai and Mr. W. D. Graham representing the Manchester Sun Fire Insurance Co. at Shanghai, came from Tientsin on the 4th inst. and after stopping 2 nights at the "Manchuia," left yesterday morning.

Mrs. and Miss McIntyre of Haicheng who came down last Thursday will go back home this afternoon in company with Mr. and Mrs. Leitch of Chenchow and also Rev. Mr. Webster on a visit to Haicheng.

Dr. Aitken and Miss Mundle of Liaoyang and Rev. Mr. R. Turley of Mukden who have been here on a short visit will take the same train for their respective homes.

Mr. Geo. Gleason, after coming back from Tairen last Monday, went up to Liaoyang yesterday, to close up his dealings with the local Y.M.C.A. work, preparatory, as is understood, for returning to Japan.

The Newchwang Club was the recipient of a handsome gif from Lt.-Col. Yokura last Thursday in the shape of an elegant se of the Encyclopedia Britannica in 35 volumes, which are placed on a revolving double shelf, provided also with a bookstand.

We are informed that an incoming ship has lately lost an anchor on the bar at the mouth of the river right in the track of vessels. It is located northeast by east from the inner buoy, and cannot be removed till the weather has grown milder. The Customs authorities have wired a warning to Shanghai, Chefoo, and Tientsin against the waylaying danger to ships.

Yesterday's Tokyo telegrams state that H.I.M. the Dowager Empress will hold a farewell banquet in honour of the departing Japanese Minister Mr. Uchida and Mrs. Uchida, upon his return about the middle of this month from a visit to Hankow.

The suspended Russo-Chinese Conference has been resumed as the results of pressure China has repeatedly brought to bear on the Russian Plenipotentiary. According to the latest Berlin intelligence, Count de Witte is thinking of resigning Russian Premiership, to be abroad as Ambassador. In that event, he may be succeeded by ex-Minister of Finance M. Kokozoff (?). Russia has addressed the Powers for participation in the 2nd. International Conference at the Hague. Both Japan and China have accepted the invitation.

Over Y. 340,000 has been appropriated as the expenditure for the contemplated Exposition to be held at Tokyo in March next year.

開行時刻

山海關至天津	上五、〇〇	下五、五五
唐山至天津	上六、一二	上一一、二八
塘沽至北京	上六、〇〇	下一二、〇六
天津至北京	上一二、〇〇	下五、二〇
山海關至北京	上八、〇〇	下六、四五
北京至天津	上一…	下五、…
天津至唐山	上一一、四二	下五、一七
天津至山海關	上六、二五	下六、二一
唐山至山海關	上六、〇〇	上一一、五八
山海關至營口	上七、〇五	下四、五五
溝邦子至新民屯	上三、〇〇	下六、五七

一、…引換書御送附ニ相成レハ…保管可申候

市場北三階樓　時計店ノ二階　宮原公司

土木建築用鐵材料其外鐵物諸般

喜場

釋尊降誕會執行仕リ并ニ法話開演致候間御參拜有之度候　主催者惣代　恒川現靈　古川大航

豫報

昨日の氣溫　最高溫度五十六度三　最低溫度四十七度七
昨年との比　高九度二　高十五度五

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館　第一營口ホテル　元神廟街九十六號（電話八四番）

料理旅館　第二營口ホテル　河岸通り

料理　第三樓　元神廟街三十二號（電話七九番）店主 粕屋忠兵衛

料理　入船亭　永世街百八十三號　谷初次郎

旅館　日營ホテル　河岸通り　店主 井上源吉

料理　東京館　永世街八十六號　店主 村上京四郎

旅館　東茂旅館　西北街百七十三號　正金銀行西三程

料理　千鳥　元神廟街百三十三號　店主 吉住善藏

料理　沖の島　永世街百六十四號　店主 中川彌三郎

料理　吉野亭　永世街八十六號　店主 坪田正好

旅館料理　高砂ホテル　高砂亭　西北街　店主 片山小みつ（電話一四五番）

旅館　竹村館　永世街二十二號（電話五二）店主 麻田久二

旅館　大和館　永世街三十四號　店主 前田九一郎

料理　滿洲樓　南永世街第十號　店主 直塚勝一

料理　萬梅　豊濟門街第百〇四號　店主 田島彌助

料理　まんなをし　永世街字二本町二百五十九号　店主 和田常松

東京　生蕎麥一式　東庵　元神廟（電話百五十九）

旅館料理　金城ホテル　永世街百六十六號　第二金城ホテル　永世街百六十六號　店主 齋藤富次郎

料理旅館　醉花園　澁谷旅館　永世街百二十七號　店主 澁田留吉

料理　喜樂亭　營口元神廟街

旅館　東雲旅館　永世街七號　店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館　東雲　主任 谷口今朝太郎

さるそば第一更料　營口元神廟街
さるそば第二更料　永世街鶴の湯角

御料理　柳亭　豊濟門街二三　店主 玉岡益人
叮嚀專一

御料理並ニ溫泉　一力　營口永世街　店主 堀万助　毎日新湯

和洋料理　松月亭　本店 營口元神廟街一四三号
和洋料理御旅館　滿洲ホテル　支店 遼陽西街西門二一七号

料理　都樓　平野町　店主 坂本ちか

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業　日營ホテル支店　主任 井上源吉

御料理會席　菊水館　主任 朝枝團捷

旅館西洋料理　遼陽館　主任 永瀬宇吉

旅館料理業　公陽館　主任 宮川秀基

御料理會席　末廣屋　主任 山根初之亟

御料理色々應御注文　凱旋亭　主任 古谷庄太郎

旅館御料理　遼塔ホテル　主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル　遼陽倶樂部　營口東雲館支店　主任 谷口今朝太郎

會席　玉家　御料理　主任 西野治三郎

御料理會席　來々亭　主任 石田清

一和洋御料理　遼泉館　遼陽城内東街
本館は遼陽城内第一繁盛の地にあり内外人往來頻繁なり今般四方紳士諸君の御勸に依り宏莊美麗なる日本風の家屋を新築致し一百人以上の宴會等も出來得へく廣間も御座候に付ては續々御光來被成下度花客諸彦に對し親切叮嚀を旨とするは弊館の特色に御座候

奉天旅館料理屋案内

旅館　奉天館　奉天城内鐘樓南大街　奉天軍政署指定旅館（電話一五）

和洋御料理　日清倶樂部　奉天大南門裡大街（電話一四）

商人御定宿　瑞豐館　奉天小西關大街北側　館主 河野嘉吉（電話　號）

會席御料理高等御旅館　天神樓　奉天小西關大街北側（電話　號）

旅館料理店　日の出樓　奉天小西門通（元紅葉館跡）樓主 大瀬七造　溫泉付大勉強キレーヂヲイシヒ（電話十七號）

旅館料理店　日盛館　奉天小西關大街南側　館主 入江熊男（電話　號）

旅館料理店　梅松館　奉天城内灰市街東華門宮殿東側　館主 押尾富次郎（電話　號）

旅館料理店　大和館　奉天大西關高臺子廟前　館主 今井コノ

旅館　大正館　奉天小西邊門外十間房道北側　館主 大草村行

奉天に於ける日本風新築家屋は弊館より外に無之特に夏期御宿泊には最も適すへき様に相成居候間御投宿の節至極便宜に御取扱可申上候以上
高砂館本店　奉天十間房第十五號

旅館御料理　奉高館　奉天城外廿四號　高砂館支店　店主 宇木智平

旅館料理店　日奉館　奉天小西門外大街　館主 原田清五郎

高等旅館　東洋館　奉天大西門外小什字街（電話號）主任 藤島初野

御料理　梅ヶ枝　奉天小西門より一丁西の辻北入　館主 辻井ムメ

旅館料理店　勉強館　奉天小西關外北長發園隣

撫順炭大販賣
多少に不拘御用命被仰付度願上候
金城館販賣部

特別室落成　營口金城ホテル旅館部

會席御料理　金城館

奉天小西門外　會席御料理　高等御旅館　金城館

一關内外蘆漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續　但弊店事務所及郵船會社代理店内派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大清通運公司營口支店

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ぶも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也
營口旅館料理屋同業組合

歐米各國最新流行形
西海洋服店
永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

新着の御知らせ
東京より
蜂印香竄葡萄酒、羊羹、味付海苔、旅行用トランク、手提鞄、御婦人足袋、謄寫版、眞筆版、コツピープレス等
其他
雛立印白酒、寄木細工、漆器、陶器、金屏風等夫れ／＼産地より着荷仕り候
新到
各種皮包、皮箱、文具格、畫掛、畫漆茶机、畫漆茶盤、金漆畫屏、金漆鏡臺、眞筆版、謄寫版、極上麝香水、蜂牌香竄葡萄酒、
營口　加藤洋行（電話八十番）

弊局土木建築材料品の各産地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道産松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種
飯塚工程局材料部
營口元神廟前（電話百三十五番）

自造　煉瓦●瓦　並に各種石材販賣
營口青堆子　加州組（電話八十六番）

大連　東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

標子　木板　料木　發賣
營口青堆子　清水寧木局（電話九十四番）

美味安價西洋料理　牛莊亭

北京　扶桑旅館
東單牌樓大街路西　客室清潔料理鮮新

御旅館　天津　芙蓉館　駐屯軍御用　並西洋料理

爲替相場（四月六日）
日本向　九十九圓五十錢（軍票百圓に付）
上海向　七十一兩二十五錢（同）
天津向　一百〇二圓五十錢（同）
芝罘向　一百〇三圓五十錢（百弗に付）
[illegible]

日本品最近物價表　加藤洋行
紙類
一半紙　一〆　二圓九十錢より三圓廿錢
一美濃紙　仝　七圓五十錢
一仙花紙　一帖（六十枚）六十錢
一塵紙　仝　一圓七十錢
一狀袋　仝　二十枚續　三錢二厘以上四錢　百枚　十三錢以上十八錢
室内裝飾品及寢具　矢野洋行
一蒲團　三枚組　六圓九十錢以上六十五圓
一座ブトン　十帖　五圓五十錢以上三十五圓
一煖爐
一疊椽　二圓六十錢以上三圓
一麻緞通　十枚　八圓
一綿緞通　一疊敷　三圓五十錢
一由加多緞　仝　一圓七十錢

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month
$2.30 per 3 months.

本紙定價
一枚ニ付　銀四仙
一ケ月前金　銀八十仙
半ケ年前金　四弗八十仙
一ケ年前金　銀九弗六十仙
廣告　二十一字詰一行一回　銀二十仙